

第4回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会

1. 日 時 令和7年3月25日午後6時30分～午後7時45分（1時間15分）

1. 場 所 調布市教育会館 301研修室

1. 出席委員	委員長	阿部 光
	副委員長	徳永 孝正
	委員	阿部 隆行
	委員	山田 勝
	委員	川端 宏志
	委員	門脇 義徳
	委員	清水 良夫
	委員	菰澤 加代子
	委員	藤堂 文子
	委員	高橋 慎一
	委員	小林 力
	委員	関口 幸司
	委員	三井 豊
	委員	泉 健一郎
	委員	深沢 典充
	委員	渡辺 賢治（代理出席者：石戸谷）
	委員	山岸 義大
	委員	伊藤 宏（代理出席者：三宅）
1. 事務局出席者	教 育 長	大和田 正治
	指導室統括指導主事	門田 英明
	指導室副主幹兼指導係長	佐藤 晋太郎
	指導室指導係主任	神田 克洋
	スポーツ振興課長補佐兼係長	吉野 秀郷

1 開会

○阿部委員長 皆さん、こんばんは。定刻より少し早いですけれども、今日、来られる方がおそろいになりましたので、ただいまより第4回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を開催させていただきます。

本日は年度末の一番忙しい中、今日、小学校では卒業式がありましたけれども、そういった中にもかかわらず御出席いただきまして、ありがとうございます。

また、日程変更ということで急きょ日程変更させていただいて本日になったというところもございましたので、そちらにつきましても御協力いただきまして、ありがとうございました。

また、本日、急きょ来られなくなった委員の代わりに、伊藤委員の代わりに三宅さんに来ていただいて、渡辺委員の代わりに石戸谷さんが来ていただいたということになりますので、御承知いただければと思っております。

それでは、初めに事務局より資料の確認がございます。事務局、よろしくお願いいたします。

○事務局（佐藤） 資料の確認をさせていただきます。

次第のほか、資料1から資料7までございます。加えて、検討委員会の要綱と、検討委員会の委員名簿でございます。資料1から資料7です。不足のある方がいましたら、挙手いただけたらと思います。——よろしいでしょうか。

それでは、資料の確認は以上です。

○阿部委員長 ありがとうございました。資料の不足がありましたら、その都度言っていただければそろえますので、よろしくお願いいたします。

続いて、会議の公開についてお知らせをさせていただきます。本日の議事内容につきましては録音をさせていただき、記録作成の上、後日、市のホームページに掲載する予定でございますので、あらかじめ御了承いただければと思います。

2 あいさつ

○阿部委員長 それでは早速、次第に入ってまいります。次第の2、委員会の開会に当たりまして、教育長・大和田より、ごあいさつを申し上げます。

○大和田教育長 皆さん、改めてこんばんは。調布市教育委員会教育長の大和田と申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、本日は御多用の中、第4回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会に御出席をいただきまして、ありがとうございます。昨年12月に本検討委員会において議論していただきました内容が推進計画として策定されまして、本年1月に市ホームページ等を通じて広く公表することができました。本当にありがとうございます。また、今年度途中から試験的に取り組んでまいりました地域移行に向けたトライアル事業も終了しまして、次年度に向けた取りまとめを行っているところでございます。本日はこれまでの検討経過を含め、学校、部活動の地域への移行を進めるに当たりまして、今後の議論の進め方について共通理解を図るとともに、地域の子どもたちや学校を含めた地域で育てるという意識の下、調布の地域資源を活用したスポーツ・文化芸術活動の機会の充実を図るため、議論を行っていただきたいと思います。思っております。

結びに、未来ある調布の子どもたちのために、また、子どもたちを支える教育関係者や地域の方を含めた多くの関係者のために、委員の皆様力を発揮していただきますようお願い申しあげて、私のごあいさつといたします。本日はどうぞよろしくお願い申しあげます。

○阿部委員長 教育長、ありがとうございました。それでは、教育長はこれで失礼させていただきます。よろしくお願いいたします。

○大和田教育長 よろしく申し上げます。

○阿部委員長 今、教育長からごあいさつもありませんでしたが、本日の会議につきましては次第に沿って進めさせていただくこととなりますが、見ていただくと、国や東京都の動向、また、トライアル事業の実施状況、ここまでは、この間の振り返りも含めてという形になろうかと思えます。令和7年度取組というところで、事務局から報告をいただいた後に、今後のこれからの進め方というところ。こういうところの内容を、今日、皆さんと認識を一つにしていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。思っています。

それでは、本日6時半から始まりますけれども、合計1時間ちょっとくらいかと思いますが、それくらいをめどに進めさせていただこうと思っておりますので、議事の進行に御協力をお願いいたします。思っております。

3 国や東京都の動向について

○阿部委員長 それでは早速、次第を進めてまいります。次第の3番になります。「国

や東京都の動向について」に移ります。最近の国や東京都の動向について、事務局のほうでまとめさせていただきましたので、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（神田） よろしくをお願いいたします。この後、トライアル事業の実施状況なども報告させていただく前に、国や東京都の動向について紹介させていただきます。

資料1の1ページ目をお願いいたします。初めに、国の動向についてです。

1つ目の動向としましては、令和6年12月に「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議 中間取りまとめ」が示されました。主な内容としましては3点示されています。

1点目が、ア「地域クラブ活動の在り方」についてです。ここでは、地域クラブ活動において、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展すること。また、マルチスポーツなど生徒の人数に応じた多種多様な体験、地域の様々な人や、幅広い世代との豊かな交流など、新たな価値を創出することが重要であると示されております。そのほか、地域の実情等に合った望ましい在り方を見いだしていくことが重要であると示されております。調布市におきましても、調布モデルの検討を進めていく必要があると考えております。

2点目が、イ「地域全体で連携して行う取組の名称」についてです。国が掲げる部活動の改革の理念や地域クラブ活動の在り方等をよりの確に表すため、「地域移行」という名称は「地域展開」という名称に変更する旨、示されました。名称変更の意図としましては、学校と地域を分けてとらえるのではなく、これまで学校内の地域資源で運営してきた活動を広く地域に展開して、地域全体で支えていく考えによるものでございます。調布市におきましても、このたび策定しました推進計画を始め、各所で地域移行という用語を使っておりますが、もともとこの国の考え方が根底にはございますので、引き続き地域移行という用語を使っていく方向で考えております。

3点目でございます。ウ「今後の改革の方向性」についてです。休日につきましては、国が掲げている次期改革期間の令和8年度から令和13年度までに原則すべての学校部活動において、地域展開の実現を目指すこと。平日につきましては、次期改革期間の前期に当たります令和8年度から令和10年度までの期間において、活動の在り方や課題の検証等を行っていく旨、示されています。資料の中に四角で囲んでおります調布市の推進目標も載せさせていただいております。おおむね国と同じ期間に調布市の計画についても推移していくものと認識しております。

続きまして、2ページ目をお願いいたします。国の2つ目の動向になりますが、令和6

年12月に部活動改革に伴いまして、学習指導要領の解説が一部改訂されました。概要について抜粋しておりますが、中学校部において地域クラブ活動の位置づけや、教育的意義等を明確化すること。中学部・高等部において、部活動が生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであることを明確化すること。部活動における留意事項として、多様な生徒・ニーズに配慮し、参加しやすい活動内容や活動時間等の工夫を実施することなどがここでは上げられております。

続きまして、国の3つ目の動向でございます。令和6年8月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインに係るフォローアップ調査結果」が示されました。この調査は都道府県や市町村等を対象にしたもので、ここでは運動部の対象の結果を一部抜粋させていただいております。

特に紹介させていただきたい調査結果としましては、3ページ目を御覧ください。3ページ目のウ「休日及び平日の部活動の地域連携・地域移行の動向」になります。休日及び平日部活動における令和5年度から令和8年度までの地域連携、または地域移行を実施する部活動数の推移を示したグラフになっております。休日につきましては、令和6年度において学校部活動数の割合63%に対し、地域連携、または地域移行を実施する部活動の割合が37%。その割合が令和7年度は54%、令和8年度は68%と年々増加していく傾向を推移しております。また、平日につきましては、令和6年度において学校部活動数の割合83%に対し、地域連携、または地域移行を実施する部活動数の割合が17%。その割合が令和7年度は31%、令和8年度は39%となっております。

続けて、エ「地域クラブ活動の課題」を御覧ください。上位4つから順に行きますと、1位が指導者の量の確保、2位が持続可能な収支構造の構築、3位が保護者・生徒の普及啓発・理解、4位が自治体・学校と運営団体・実施主体の連携体制の構築となっております。調布市におきましても、ここで上げられている課題におきましては重複する課題もございますので、引き続き検討していきたいと考えています。

続きまして、4ページ目をお願いいたします。ここからは東京都の動向について説明させていただきます。1つ目の動向としましては、東京都では学校部活動の地域連携・地域移行について、地域や学校関係者に広く周知し、理解促進を図るためにリーフレットやニュースレターを発行しております。ここでは参考に、地域関係者用のリーフレットを載せております。調布市におきましても、推進計画の中で主な取組の一つとして情報発信を掲げておりますので、こういった東京都の特集も参考にしながら進めてまいりたいと考えて

おります。

続きまして、5 ページ目をお願いいたします。東京都の2 つ目の動向としまして、令和6 年8 月に「未来へつなぐ部活動改革アンケート集計結果」が示されました。これは都内の公立中学校等の2 年生の生徒や、その保護者、2 年生に相当する学年の生徒や、その保護者を対象にした調査で、生徒対象の結果を一部抜粋しております。このうち1 つが、国が中学校の部活動を地域に移行することを示していることを知っていますかという設問で、「知らない」と回答した生徒の割合が77%となっております。また、もう1 つの設問として上げております「希望する種目や分野の活動が、地域クラブ活動としてある場合、参加しますか」とありますが、「参加する」と回答した生徒の割合が61.2%となっております。調布市の回答割合についても、この全体の割合とほぼ変わらない結果となっております。

最後に6 ページ目をお願いいたします。東京都の3 つ目の動向としまして、東京都では公益財団法人東京都教育支援機構（TEPRO）に委託し、都立中学校等の休日の学校部活動において、外部事業者と学校が連携して地域クラブ活動を応援する取組を試行実施しております。この後、事務局から調布モデルの検討に向けた説明の中で、業務委託についても触れさせていただきますが、このような東京都の取組も参考にできればと考えております。

今後も国や東京都の動向を注視しながら、調布市の推進計画に沿って進めていきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○阿部委員長 ありがとうございます。今、3 番の「国や東京都の動向について」ということで説明を事務局からしてもらいましたけれども、5 の令和7 年度の取組まで一括して説明をさせていただいた後に質疑応答ということで進めたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

4 トライアル事業の実施状況について

○阿部委員長 それでは、続いて次第の4 「トライアル事業の実施状況について」に移ります。今年度実施してきましたトライアル事業の結果について、事務局から報告をお願いいたします。

○事務局（吉野） それでは、今年度のトライアル事業の実施状況について御説明します。資料2 を御覧ください。おめくりいただければと思います。今年度に策定した推進計

画においては、推進目標として令和9年度以降、可能な限り早期にすべての休日部活動において、地域連携か地域移行を実施することを掲げております。地域移行については、地域資源を活用して、市の実態に合ったスキームとして調布モデルを構築すべく、今年度から運営体制、施設管理、学校や指導者等との連携、また、生徒のニーズ把握など、様々な観点から成果と課題を検証するため、トライアル事業を実施いたしました。

令和6年度のトライアル事業は、合同部活動と地域クラブ活動という2本の柱で実施いたしました。合同部活動については、部員数の減少により近隣の中学校と既に合同で実施している部活動をピックアップして、その実態の把握はもとより、市ゆかりのトップスポーツチームとの連携による競技力向上の取組を実施し、今後に向け、地域資源活用の方角を検討いたしました。地域クラブ活動については、運動系、文化系ともに複数種目について実施し、生徒のニーズ把握や地域クラブ立ち上げを見据えた課題の整理を行いました。

3ページを御覧ください。具体的には、まず合同部活動については、F C東京や読売巨人軍との連携による部活動への指導者の派遣を行い、競技力向上の機会といたしました。また、地域クラブ活動では、玉川大学教育学部と連携したマルチスポーツや、市内のクライミングジムと連携したスポーツクライミング。文化系では、調布市囲碁連盟協力の下、既存の囲碁部について顧問を置かず外部指導者による部活動運営を試行的に実施いたしました。

4ページから7ページには、それぞれの取組の概要や写真を掲載しておりますので、御覧ください。

また、8ページを御覧ください。8ページには、地域クラブ活動のモデル事業として実施したマルチスポーツとスポーツクライミングに参加した生徒へのアンケート結果を掲載しております。ほとんどの生徒からポジティブな回答があり、参加者の満足度は非常に高かったものととらえております。

これらの活動については、次からの9、10ページになりますが、成果と課題をまとめております。

まず、成果についてです。合同部活動については、子どもたちが、元プロの選手やトップチームのコーチによる専門的な指導を受けられたという点で有意義な機会になったものととらえております。また、マルチスポーツやスポーツクライミングにおいては、多世代交流や民間との協業による事例創出につながりました。文化系の囲碁部では、専門的な指導者による指導を継続したことで段位の取得につながるなど、生徒の意欲をかき立てる内

容であったものととらえております。

本年度のトライアル事業に当たっては、全体の企画から生徒の応募や保険加入、当日の運営や緊急時の連絡体制の構築、指導者等への謝金の支払い、民間施設や大学などの協力、相手方との交渉・調整など、多岐にわたる業務について教育委員会と市長部局が連携して実施いたしました。その過程で地域クラブ運営に係る実務の実態を把握できたことは大きな成果になったものととらえております。

次に10ページ、課題についてです。

1つ目は、トップスポーツチームなどの地域資源の活用方法のさらなる模索です。今年度は、合同部活動に指導者を派遣するという形をとりましたが、令和9年度以降の地域移行を見据え、どういった活用が調布の子どもたちにとって望ましいのか。より広く競技力の向上などに資する方法はないかなど、引き続き検討していく必要がございます。

2つ目は、今回、地域クラブのモデル事業として既存部活にない新規種目の活動を実施しましたが、生徒の集客が想定よりも難航したというのが実態です。多くの生徒が既に何らかの部活動に加入し、かつ休日の練習の予定が入っているなどの現状においては、地域クラブのモデルとして何度か活動を継続してみることそのものが生徒にとって参加のハードルが高かったのかと認識しております。新規種目については、生徒の新たなニーズに対応する取組として実施していましたが、そのニーズ把握の手法ですとか、ターゲットや実施方法などは再考の余地があると考えております。

3つ目は、文化部の囲碁部について、これは後ほど文化部門から補足していただきたいと思いますが、外部の指導者が技術指導以外のクラブ運営にどのように関与していくのか。その具体の業務や役割などを整理していく必要がございます。

4つ目は、今年度はできていなかった既存の部活動種目について、地域連携として外部指導者が入っていないケースに対してアプローチすることが地域移行を推進する上で肝要であると考えております。

5つ目は、今回のトライアル事業を経験した中で実施に係る実務が多岐にわたっていたことから、今後、地域クラブの立ち上げなどを見据えていく中で、各ステークホルダーの役割をしっかりと整理する必要があると考えております。

これらの成果と課題を踏まえ、令和7年度のトライアル事業の方向について検討してまいります。

令和6年度のトライアル事業の報告は以上です。

○阿部委員長 ありがとうございました。

5 令和7年度の取組について

○阿部委員長 それでは、次第の5の説明を一括していきますので、次第の5「令和7年度の取組について」に入ります。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（佐藤） 初めに、(1)地域連携の推進について御説明をいたします。資料3をお願いします。部活動の地域連携の現状についての御説明になります。教員に代わり、部活動指導を担っていただいている方が、こちら、先般の検討委員会でも御案内させていただきましたが、調布市では部活動指導員と部活動外部指導員がおります。

まず、部活動指導員についてですが、令和6年度は20人分の予算を確保し、その中で学校が工夫し、29人の配置の実績がございます。各校の配置の実績は以下の表のとおりとなります。

令和7年度につきましては、24人分の予算を獲得いたしました。現在は来年度の教員の体制を踏まえ、学校が新規に必要な種目の精査を行っているところでございます。今後、公募を行い、早ければ5月からの運用を目指しているところでございます。

続いて、部活動外部指導員についてですが、令和6年度は79人の方に協力をいただいております。令和7年度も6年度と同規模の予算を計上していますので、引き続き部活動指導を担っていただきたいと考えております。

資料の裏面をお願いいたします。こちらは、本年2月現在の部活動の地域連携の実施状況を可視化したものとなります。部活動指導員を「★」、部活動外部指導員を「●」で示しています。「★」か「●」で示してある部活動は、現状、地域連携がなされているという状況でございます。なお、黒の網掛けの箇所は、そもそも部活動がない、もしくは部員がいない活動です。黄色のセルについてが、外部指導者の配置がなく、現状、教員による指導が行われている部活動になります。

まず、運動部活動については、全体で78部ございますが、地域連携の部活動が36部、教員指導による部活動が42部となります。文化部は全体で46部のうち、地域連携が18部、教員指導が28部となります。こちらは令和6年度現在の状況となっていますので、令和7年度に入ってから改めて新体制での状況を整理する予定です。また、教員であっても部活動指導を希望する方もいると思いますので、指導を希望しない、または指導経験のない教員の洗い出しをしつつ、地域移行の取組を進めていく上で、取組の優先度を整理していき

いと考えております。今回は、現状、整理した内容を参考としてお示しさせていただきました。

説明は以上でございます。

○事務局（吉野） 続いて、資料4を御覧ください。令和7年度における地域移行「調布モデル」の検討に向けて説明いたします。

令和7年度については、専門事業者を入れて、調布モデルの検討及び制度構築に取り組む予定です。なお、事業者候補は公募型プロポーザルにより、スポーツデータバンク株式会社に決定しております。具体的な検討の内容ですが、資料にございますとおり、学校や関連団体へのヒアリングなどを通じた実態把握や、トライアル事業における課題抽出を行いながら、スポーツ協会を中心とした全体スキームの検討を行います。また、収支シミュレーションなどを通じた費用負担の在り方の整理や、地域人材確保のための仕組み。また、学校と地域の役割分担や施設管理上の課題の整理など、市としての制度の大枠を整理してまいります。

また、地域移行には、特に生徒や保護者の方々の理解が欠かせないことから、地域クラブ活動に対する理解促進のための啓発資料作成などにも順次取り組むとともに、調布モデルのスタートに向けた詳細なロードマップの策定も予定しております。

これらの検討はもとより、地域移行の推進には様々なステークホルダーがそれぞれの役割と責任の下でかかわり、地域移行後もかかわり続けていくことが肝要であると考えておりますので、調布モデル検討の段階から関係者が連携し、ともに議論を重ね、幅広い観点から複合的に検討を進めてまいります。

続いて、資料5を御覧ください。令和7年度におけるトライアル事業の方向について御説明します。

令和7年度のトライアル事業については、令和6年度の実施の成果と課題を踏まえるとともに、令和7年度からの調布モデルの検討、制度構築を見据えた取組を展開いたします。

1点目は、トップスポーツチームと連携した取組の実施です。令和6年度は合同部活動への指導者派遣という形でしたが、今後、地域クラブに所属する子どもたちへ広く還元できる仕組みの検討を目指し、希望校や希望する生徒が広く参加できる合同練習会のような形での実施を検討いたします。また、トップスポーツチームとの連携を進め、対象とする種目についても拡大を検討してまいります。

2点目は、既存の部活動種目に関する地域移行モデル事業の実施です。資料3、先ほど

の説明にもございましたが、令和7年2月末現在、運動部78のうち、部活動指導員もしくは部活動外部指導員未配置校が42部となっております。令和7年度は、こうしたケースについて地域指導者を試行的に派遣したり、地域クラブのモデルとして活動したりすることを検討してまいります。

3点目は、新規種目に関する地域移行モデル事業の実施です。令和6年度はマルチスボーツとスポーツライミングについて実施いたしましたが、その成果と課題を踏まえ、ニーズ把握の手法を再検討いたします。具体的には、令和6年度は複数回の活動への参加を原則とする形としましたが、令和7年度は広くニーズを把握することに重きを置き、体験会のような形でもう少し参加のハードルを下げることを考えております。また、参加対象も、現中学生ですと、どうしても既存部活動に入っているので参加が限られてしまうということですか、令和9年度以降に中学生になる層として、現在の小学生までをターゲットとして拡大することも視野に入れ、検討を進めていきたいと考えております。

また、令和9年度以降を見据えて、1校におけるすべての休日部活動において地域連携か地域移行を実施する先事例の創出をすることで現状と課題の分析を進めていきたいと考えておりますので、モデル校の選定について検討してまいりたいと考えております。

これらのトライアル事業について、令和7年度は引き続き学校、教育委員会及び市長部局が連携して取り組むとともに、調布モデルの中で中核的役割を想定しているスポーツ協会とも密に連携しながら進めてまいります。

資料の説明は以上です。

○事務局（門田）　　続きまして、資料6をお願いいたします。次第の(4)今後の検討体制についてでございます。

資料では、今後の検討体制(案)という形でお示しをしております。ここまでお示しをしました方向性を具体的に落としていく組織づくりのイメージとしてまとめております。

まず、1「令和8年度末までの計画期間における主な取組」についてです。①から⑤まで項目立ててお示しをしております。こちらについては、これまでの検討委員会の中でもお示ししてきている内容となっております。

続きまして、2「今後の検討体制」についてです。先ほどの1を受けて、令和8年度末までの今後の検討体制についてまとめたものとなっております。大きく地域連携と地域移行について分けさせていただいております。それぞれ項目を設けております。地域連携であれば外部指導者による指導、大きく2点、指導者の質・量の確保、2点目がトライアル

事業、合同部活動の実施、この内容について検討していきたいというところでございます。

併せて、地域移行についても項目として4点上げさせていただいております。運営体制、施設、教員のかかわり方、財源等についてでございます。それぞれの項目において検討が必要であろうという内容を入れさせていただいております。表の右側の作業部会運営担当（案）というところですが、これは後ほど御説明させていただきます。

3「検討部会の位置づけ」について移らせていただきます。検討委員会の下部組織、本委員会の下部組織として検討部会を位置づけて、今後の具体的な取組についての検討を行ってまいりたいと考えております。主に、これまで事務局が担ってきた検討会に、今後新たに關係していただく部署等に入っていただくイメージでございます。メンバーについては今後お示しをしていきたいと考えております。

検討部会についてですが、先ほどお示しました今後の検討体制の項目ごとに作業部会を立ち上げて、実務に関する進行管理を行ってまいりたいと考えております。また、關係する部署間の連携・調整、検討事項について、これらを本検討委員会への報告を行う、そういう部会を立ち上げてまいりたいと思っております。また、その部会の下に作業部会、先ほどお話をしました作業部会について立ち上げて、より具体的に落とし込んでいくための組織として位置づけていきたいと考えております。この作業部会のほうには、検討部会のメンバーも入っていきながら検討を進めてまいりたいと考えております。

最後に、4「スケジュール」になります。令和7年、令和8年2月までの大まかなスケジュールについて入れさせていただきました。この中で、下段の「※」で2点示させていただいておりますけれども、協議、取りまとめた内容については検討委員会に報告をさせていただきます。また、作業部会ごとに検討する日程等を今後調整させていただきたいと考えております。

資料6については以上です。

○阿部委員長 ありがとうございました。

次第の3番から次第の5番まで一気に御説明をさせていただいたところでありますけれども、少し戻っていただきまして、まず国や東京都の動向というところから、もし皆様方から御意見、確認等があれば伺っていききたいと思っております。

資料1になりますけれども、何か御意見はございますでしょうか。

資料1のイのところ、先ほど事務局から説明がありましたけれども、「地域移行」という名称を今後は「地域展開」という名称に変更するといった報告がありました。国が地域

移行から地域展開に変えるということであれば、今後、我々、この間、計画等をつくって
いますけれども、地域移行という言葉は地域展開という言葉に読み替えていただく必要性
がありますので、そこについては、今、それぞれの資料の中で地域移行という言葉がたく
さん使われていますが、今後、国の動向に合わせて、地域移行を地域展開といったことで、
市民についてもホームページ等で御案内をさせていただきながら、恐らく、地域展開とい
う言葉が主流になってくるのかと思いますので、皆さんも御承知おきいただければと思っ
ています。

特段、国や東京都の動向について何かありますでしょうか。補足とか何かあるでしょ
うか。事務局で先ほど説明いただきましたけれども、補足的に何か……。——大丈夫ですか。

（「なし」との声あり）

○阿部委員長

国や東京都の動向について一応説明をさせていただいたので、皆さん、こういう共通認
識を持っていいただければいいかと思いますので、こちらについてはまた何かありましたら
御意見をいただければと思います。

次に、資料2に行きます。トライアル事業、東京都はトライアル事業をやりましたとい
うことで事務局からも御説明させていただいたところでありますけれども、マルチスポー
ツであったり、幾つか、クライミングジム、様々な取組をしたわけですが、これらについ
て何か御意見ですとか、質問ですとか、等あればお願いしたいと思いますが、何かござい
ますでしょうか。——お願いします。

○荳澤委員 四中に見学に行ったのですけれども、子どもたちの参加が少なかったの
です。地域移行とか、自覚がない。国は、ここにはないとか、新しい種目のスポーツをやる
とか、そういうイメージがなかなかなくて、参加が低かったのではないかと思われたので、
子どもたちに、そういうことをするという都のイメージがなかなか描けないので、ある程
度の絵は、2年生なり1年生とか、全員とは言わないけれども、参加することをある程度
決めて、新しいスポーツがあるんだよとか、自分の学校にはないが、違う学校にあるので
合同でやれるとか、そういうイメージが膨らませやすいような参加の仕方があればよかつ
たなと思います。せっかくの機会なのに、ちょっともったいないなと思いました。

○阿部委員長 ありがとうございます。

事務局から、今の御意見について何かありますか。

○事務局（吉野） 今回、マルチスポーツについて、参加者数を集めることに難航した

のですけれども、今回、クラブ活動の場、やってみるという中では、我々側も、クラブの運営というところも想定していたので、要は、基本的に4回来てくださいという前提で最初募集しました。そうすると、募集してから活動開始までの合間も少なかったということですとか、先ほど申しあげたように、土日にも既に部活動の予定が入っている方も多かったかと思う中で、なかなか集まらない。やっていく中で、少し条件を緩和しながらやっていたのですけれども、最初の打ち出しの中でハードルが高かったかなというのは事務局としても反省しておりますので、こういった形であれば、このトライアルの目的であるニーズの把握ですとか、運営の議事というものもあるのですけれども、それが達成できるのか。また、ターゲットも含めて、もう少しいい形がとれるかと我々もやっていた中で思いましたので、次年度はその目的をしっかりと達成できるような形を考えていきたいと思います。

○阿部委員長　ありがとうございます。手探り状態というところもありますので、とりあえずいろいろやってみるというところが必要なのかなと思いますので、やりながらどんどん改善して行って、最後、いいモデルができればいいかと思っています。

ほかに何か御意見等ございますか。——藤堂委員。

○藤堂委員　先ほど、課題の中に出てきた囲碁部のところについて、具体的にどのような点なのか教えていただけますでしょうか。

○阿部委員長　では……。

○事務局（石戸谷）　文化生涯の石戸谷が説明いたします。

こちらに記載している課題として、調布の囲碁連盟からも確認しておりますが、囲碁の段位を取得するなど、調布市内ではなく、遠方に出る必要があるという中で、たまたま今回は囲碁連盟の対応ではなかったということですが、今後そういった機会が増えてくる際に、体制的な課題として、今後想定されるということが共有されております。

以上でございます。

○阿部委員長　そのほか、何かございますでしょうか。——では、阿部先生、お願いします。

○阿部委員　玉川大の阿部です。

マルチスポーツのトライアルということで、やらせていただきました。人数は少ないながらも、参加した中学生にとっては、アンケートにもありましたけれども、かなり楽しくやらせていただきましたし、大学生にとっても非常に有意義なトライアルであったかと思っています。参加してもらえれば、よさがすごく分かってもらえるというのですけれども、参

加してもらわないことにはというところは今年の課題だと思いますので、今後、クラブ、部活というよりは、本当にマルチスポーツを知ってもらうことのほうが、令和7年重要かだと思いますので、例えば、先ほど事務局からもありましたが、小学生は将来の中学生でもあるので、将来、実際に移るであろう小学生も対象にしたり、本当に緩く参加してもらいたいと思っています。なかなか部活というとハードルが高いので、まずはマルチスポーツとか、クライミングもそうですけれども、知ってもらうことが、令和7年度重要なかと思っていますので、そういった視点で協力していきたいと思っています。よろしくお願いします。

○阿部委員長 ありがとうございます。

そのほか何か……川端委員。

○川端委員 三中、七中のサッカーの合同クラブのトライアル等、マルチスポーツのほうに一度お邪魔させていただいて、両方見させていただきました。サッカー、私も指導員として参加しているのですけれども、子どもたちもすごく楽しそうにやっていたところと、また新しい新鮮な空気感の中で主催されたのかなと思います。今振り返ってみると、我々指導という側にも市の持ち方とか、そういった学ぶ機会があると、また広がっていくのかというようなことは感じさせていただきました。

マルチスポーツのほうに関しても、残念ながら人数は少なかったのですけれども、参加している子どもたちは非常に楽しそうにやっていたという印象はすごく受けています。今お話があったとおり、下の世代、小学生からマルチスポーツ、サッカーとか、野球とか、バスケットではないけれども、クラブに入らないが、こういう楽しい、ベースボールに入るとか、4種類くらいの種目をやっていたのかな、そういう新しいスポーツを小学校の時代から経験させていって、中学校で土曜日、そこに集まると、違う学校の人に会えるよみたいな環境をつくっていくというスタンスでもいいのかなということを主に感じました。

以上です。

○阿部委員長 ありがとうございます。サッカーの合同部活みたいな感じで、その後から連絡を取り合ったりするような感じになるのですか。

○川端委員 通常、三中の生徒さんたちとは、先生を通じて連絡は取り合っているのですが、やはり指導の仕方とか、声をかける手法というところはすごく参考になります。私、個人としても。やはりそういうプロの指導の方の教え方を見るというだけでも、短時間で、いかに集中させて上達させるかという学びの場所。逆に私が学ばせてもらったというような

感じもあったので、そういう機会が多くの人にあると、よりいいと思います。サッカーだけではなくて、違うスポーツに関してというように思います。

○阿部委員長 ありがとうございます。

そのほか何か御質問でも構いませんし、御意見でも構わないのですが、ございますでしょうか。

（「なし」との声あり）

○阿部委員長 そうしましたら、資料3のほうに参りたいと思うのですが、資料3は部活動地域連携の状況についてということで説明がありました。裏面ではカラーでありますけれども、実際に部活動指導員、部活動外部指導員、こんな状況ですというところも調べていただいて、私もこれは面白くて、今こういう状況なのだ、随分増えてきたなと思うところです。この辺について何か御意見ですとか、御感想でも構いませんけれども、いかがでしょうか。人の配置というところで行くと、スポーツ協会の門脇さんのところが、こういったところの、今まだ全部入っていないのですが、見た感じで何となく、人をあてがえそうだなみたいなのところはありますか。

○門脇委員 資料3ですが、ある程度の情報はこれまでの資料にも入っておりますので、資料3だけで改めて質問はないですが、ほかの部分でも大丈夫でしょうか。

○阿部委員長 大丈夫です。

○門脇委員 令和7年度以降のことで、かなりスピード感を持ってやらないと令和9年度スタートがかなり厳しいかなと感じています。加盟団体、スポーツ指導員、スポーツボランティア、実際に今、登録している方がたくさんいるので、その方々にも情報提供をして、トライアル事業にどんどん関わっていただきたい。実際指導は出来ないが、スポーツボランティアとして事業に関わってもらうこともできます。また、トライアル事業と同時進行で、地域の方々に登録していない、発掘できていない人材がいるかもしれませんので、スポーツ協会として人材確保という点で、令和7・8年で組織整備をしていきたい。

まずは、トライアル事業に令和7年度は、スポーツ協会と加盟団体も含めてしっかりかわらせていただきたいと考えています。

○阿部委員長 ありがとうございます。今、スポーツ協会、令和7年度からいろいろご協力いただけることになる。そういった中で調布モデルという言葉が今、市議会の中でも非常に飛び交ってしまっていて、調布モデルとは何ぞやというところで、これから試行錯誤しながら調布モデルをつくっていくのですというような話をさせていただいているところで

はあります。今の門脇さんのお話を含めて、今後、令和7年度に向けて地域移行でスポーツ協会さんとも一緒になりながら、調布モデルをしっかり構築できればと思います。

ほかに何か、皆様方から御意見、御感想含めてございますでしょうか。

○門脇委員 追加というか、少し戻りますけれども、国の動向の中で、教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出するという部分が少し気になっています。スポーツ協会は他の区市町村にもあり、外部指導員、部活動指導員を既にスポーツ協会から派遣しています。その関係者と意見交換をすると、「教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出する」という部分に多くの意見が出ていると聞きます。学校の教員も、地域の指導者になると、教員ではなく一指導員としての扱いになります。先日、体罰に関わるセミナーも実施しましたが、やはり教員と地域の指導員では、立場も権利も違います。今後、指導者への説明も必要になると思いますので、丁寧に説明できるようにしていきたい。内容が戻って申し訳ありませんが、改めて確認をさせていただきたい。よろしく願いいたします。

○事務局（門田） 御意見ありがとうございます。部活動の教育的意義ということを経承・発展させていくということが示されているところですが、これまでも、例えば、地域のクラブで指導されている中で、かかわってきている子どもたちに思いやりの心を持つことであったり、自主性や社会性を育成するような言葉かけ。また、人間関係を豊かにしていくための指導、そういったものは日常の指導の中で恐らくされてきていることではないかと思うのです、地域クラブにおいても。学校の部活動においても、これまでそういった指導については実施をしてきている。今度、地域に展開していく中で、その部活動で担ってきたものを引き継ぎながら、さらに発展させていくようなイメージを国が示していくというところで御理解いただければいいのかと考えております。

○小林委員 先ほどのところで、私も最後に触れさせていただこうと思っていたのですが、今、御質問いただいた内容について、事務局からも説明がありましたが、今回、把握資料がなかったですが、資料1の2ページの(2)部活動改革に伴う学習指導要領解説の一部改訂のところに、いわゆる概要を示していただいています。概要というのでは、特別に触れられているわけではないのですけれども、実際の学習指導要領の解説というところに、こういった表記が追記されているかという中にヒントがあるのかと考えられています。次回、資料を添付していただいたほうがいいかと思うのですけれども、総則編というところに新設された中で、読ませていただきます。

「学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高いことも指摘されている」という表記があるのです。ですから、学習指導要領の改訂の中でいうと2つの要素があって、人間関係の構築と、自己肯定感を高める。この自己肯定感を高めるということについては、また深掘りはされているのですが、自らの適正や興味・関心等をより深く追求していく機会として部活動をとらえていることから、この学習指導要領に追記された部分を見るだけでも、学校教育の一環として行われる部活動とは言われているのですが、恐らく社会教育の中で行われているものについても、同じように人間関係の構築、自己肯定感を高めているということがあるとするれば、特別に学校で行われていることだけではないのだなというとらえを文科省がしているということが分かるかと。これについては新旧対照表に詳しく載っていますので、次回以降、資料に追記をさせていただきたいと考えています。

○阿部委員長 ありがとうございます。

そのほか、何か御意見、御質問等ございますでしょうか。――全体を通してで構いませんので、先ほどの説明の中で関係するところもいっぱいありますので、全体を通してということで、せっかくですので、まだ御発言されていない方から御意見等いただければと思うのですが、清水さん辺りいかがでしょうか。

○清水委員 資料1のアンケートの結果が出ていたのですが、それ、すごくがっかりしてしまって、回答率ですか、余りよくないし、教員の回答率も3割いってない。全然知らないとかいうのが寂しいなというか、もう少しこの辺が盛り上がらないと、本当にどういうものをつくれるのだらうというのが分からないので、これは東京都ですね。調布のほうはもう少し丁寧にしていかないと、やはりトライアル事業にしても、参加者が少ないというのは、そういう認識がないのかなと思って、手法も大事だと思うのですが、意識として、そういうものをコマーシャルとかしていかないといけないのかと思いました。

さっきの専門のトップチームの方を指導者にしたときに非常に勉強になって、それは既存の部活動の中でいくと、やっている子どもたちに対しては、レベルアップに繋がるしいいことだと思いますし、それを合同練習に通じて数多くしていくというのも方向的には良いと思っています。

それから、玉川大学の先生もおっしゃっていた、マルチスポーツに関しては、やはり今の中学生だとイメージが湧きづらいから、小学生時代から体験して「中学校に行ったらこ

ういう部活動ができる」と意識してくれたら新しい部活動に参加しやすくなるのではないか。我々が思っている概念の部活動ではなくて、新しいものが出てきて、それに対する新しい欲求というか、出てくるのかと思うから、やはりここがもっと強く、参加者を多くして、いろいろなことをやってみるというのは非常に大事なのかと思いました。

○阿部委員長 ありがとうございます。

参加者は年度内に増やしていくということは必要だなと思っているところでありますけれども、今、清水委員からも、このアンケートの結果について、教員であるとか、学校現場でのとらえ方、部活に対してのとらえ方はどうなのかなと。その辺、山田校長先生、中学校の現場で、例えば、教員の先生方から、このアンケートですと、先生方のとらえ方というのは、もっと前向きでもいいのかなみたいな気もするのですけれども、どんな感じでしょう。

○山田委員 アンケートに答えている項目について、確かに、この内容が、学校現場で非常に困っていることに対して即しているかどうかという視点から見ると、ちょっとずれているところが正直あるのかと思います。回答率の低さにつながっているのかなという気はしています。

違う点でもよろしいでしょうか。

○阿部委員長 どうぞ。

○山田委員 例えば、トップチームと連携して取組の実施を今回、トライアル事業の方向として検討していただけたという記載があったのですけれども、合同練習会の形で実施を検討していただいているところですが、例えば、スポーツ協会さんに主催していただいたり、そのやり方はありがたいなと思っているのは、個人として参加してくれているから参加させやすいし、「行ってみたらどう？」と声をかけやすいのですけれども、ここに書いてある「希望校による合同練習会」となったときに、土日の参加についてはちょっとためらってしまう顧問がいるところについてはどのような働きかけができるかなというところの働き方改革に結び付けた視点というところをもう少しくんでいただけると、こちらとしてはありがたいと考えてございます。

○阿部委員長 ありがとうございます。

働き方改革というところも、部活動地域連携・地域移行という部分で、先生方、働き方改革の視点。当然書いてあるのですけれども、そういうところを踏まえながら、また、全体で質問、御意見でも構いませんが、何かございますか。

（「なし」との声あり）

○阿部委員長　そうしたら、これまでもいろいろな御意見等いただきましたけれども、総括的に阿部先生から一言、全体を通して御意見をいただければと思います。

○阿部委員　部活動の地域連携・地域移行が全国的に入ってくる中で、必ずしもうまくいく自治体だけではなくて、中には地域移行をしない、学校で完結しますというような自治体もある中で、丁寧に調布市の場合は、地域のステークホルダーも巻き込んだりしてやっているのはすごくいいなと思います。これが調布モデルだということまではまだ行っていないのですが、また来年度、トライアル事業をやっていく中で調布モデルの形が見えてくればいいかと思います。

今日はすごく、中学生だけで考えていた中で、将来の中学生というところで、そこも考えていかなければいけないというところと、今の中学生は将来、地域に出るわけですから、今の中学生が指導者として戻ってくるということも念頭に置きながら、調布モデルを構築することが必要なのではないかと思います。また来年度トライアルするとか、あとは丁寧に生徒のニーズをヒアリングする中で構築していければいいかなと思っております。

以上です。

○阿部委員長　ありがとうございます。

皆さんからいろいろ御意見等いただきました。

6 今後の進め方について

○阿部委員長　そうしましたら、次第の6番、今後の進め方のところに移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。何か言い足りないとかということは大丈夫ですか。——それでは、今後の進め方に移りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（佐藤）　資料7をお願いいたします。「今後の進め方について」です。

上段の「○」印の部分になります。まず、基本的なものですが、推進計画に基づき、各種取組を引き続き推進してまいります。

外部人材による指導の拡充（地域連携）を進めるとともに、令和7年度も実施いたしますトライアル事業の実施による成果と課題の検証を進めながら、地域移行の全体スキーム「調布モデル」を令和7年度中にいったん取りまとめを予定しています。

検討体制としては、先ほど申しあげたとおり、本検討委員会の下部組織である検討部会や作業部会を活用し、実務者レベルで論点ごとの具体的な検討を行い、本検討委員会でも

の過程を共有させていただきます。

調布モデルで整理された内容について令和8年度に準備を進め、令和9年度の休日部活動の地域移行開始を目指してまいります。

詳細のスケジュールは以下のとおりです。本検討委員会は令和7年度は8月、12月、3月の3回を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、第5回の本検討委員会は、令和7年8月22日金曜日を予定しております。ただ、新年度を迎えるに当たり、委員の変更などもあるかと思いますので、今後改めて委員の任命について御依頼をさせていただく予定です。

説明は以上でございます。

○阿部委員長 ありがとうございます。

今後の進め方について、事務局から説明をいただきました。今の説明の中で、何か御質問等ございますでしょうか。

令和6年度は、皆さん、御承知のように12月に推進計画を策定させていただいて、それを踏まえてトライアル事業等やっていくということ。今度、令和7年度でございますけれども、今、事務局から説明があった内容で進めていくというところの中で、令和7年度のポイントは、やはり調布モデルです。調布モデルというものをやはりしっかり取りまとめるというところが1つのポイントだと思います。それを取りまとめた中で、調布ではこういったモデルで部活動の地域連携、地域移行、地域展開といったものを進めていきながら、令和9年度にしっかりと計画どおりできるように進めていくといった流れになっていると。

そういった流れで進めていきたいということで事務局から今、説明がありましたけれども、皆さん、ほかに何かございますか。

（「異議なし」との声あり）

○阿部委員長 ありがとうございます。

では、今後の進め方、今、事務局の説明があった方向で今後も進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

7 その他

○阿部委員長 それでは、次第のその他になります。では、次第の7「その他」、事務局から事務連絡をお願いいたします。

○事務局（佐藤） 事務局から事務連絡2点です。

先ほどと重複いたしますが、今後、委員の改選の関係で、各団体の代表者様を通じて依頼をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

もう1点は、今回の会議の議事録についてホームページの公開前に皆様に確認の依頼をさせていただきますので、御協力をお願いいたします。

事務局からは以上です。

○阿部委員長 ありがとうございます。

8 閉会

○阿部委員長 最後に、今回の閉会に当たりまして、生活文化スポーツ部長の徳永よりあいさつをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○徳永副委員長 本日も御議論いただきまして、誠にありがとうございます。会の途中でもありました、今現在、開会中の第1回市議会定例会におきまして、私ども文教委員会の中におきましても、この部活動の地域連携・地域移行、各課において質疑がありました。その中においても、「調布モデル」とは何ぞやというところはやはり話題にあがりました。そこに向けては、答弁の中においては、今なおつづけている段階なのだというお話をさせていただき、その中においても、持続可能なスキームづくり、市の実態に合ったスキームづくりをしていきますよという話にとどめている。そこには、どのような進め方をしていくかという中で、令和7年度末に、この調布モデルが作り上がったという話をさせていただきましたけれども、令和8年、第1回の定例会においては、「調布モデル」とはこういうものですよと、しっかり胸を張って言えるように、また皆さんとしっかりと議論させていただければと思っています。議論する中においては、私ども行政も、どこかが突出してはいけないと思っていますので、しっかり歩調を合わせながら、私どもの生活文化スポーツ部の中でも、スポーツの分野もありますし、文化芸術の分野もございます。そこをしっかりとやらせていただきますので、またこの1年、年度はここで終わりますけれども、この会が終わるわけではございません。また引き続き令和7年度もよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○阿部委員長 ありがとうございました。

それでは、本日は、これを持ちましてすべての議題が終了しておりますので、以上をもちまして、第4回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を終了させていただきます。本日は本当に年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとう

ございます。今回の次第に沿って進めさせていただきましたけれども、目的はある程度達成したかなというところで、トライアル事業はこんなことをやりましたよということで、令和7年度から実際にどういことをやっていくのかというところだけ、皆さん、最後の共通認識を持たれたかと思いますので、また引き続きよろしくお願いいたします。

これにて本日の会は終了いたします。ありがとうございました。